



## 川床中学校で平和学習プロジェクト 「平和について」を自分ごと

4月11日、川床中学校（秦一成校長・48人）で、2、3年生を対象にブロック玩具を使った平和学習が3人の講師を招いて開催されました。これは「平和について考え、どのように行動していくべきなのか」という視点を養い、「私は」を主語に、身近な問題として捉えていくことを目的としています。

日本国際ボランティアセンター（東京都）の木村万里子さんの講話では、2020年から24年までに行ったイスラム圏の支援活動の経験を紹介しました。社会福祉士でファシリテーターの横井裕子さん指導のもと生徒らは、木村さんの講話を聞いて感じた思いをブロックで表現。グラフィックコンサルタントの本園大介さんが学習中の講話や生徒の発表をイラストにまとめました。

このブロックには、言葉だけではうまく説明できないことを、手を動かしながら自分の考えを形にできる特性があり、創作の中で、見えてくることや生まれる対話があります。生徒らは、ブロックで形にした施設やレスキュー車、食料支援などそれぞれの作品を手にとって、講話から感じたことを話し合いました。

3年生の松原昂生（こうせい）さんは「普段深く考えない戦争について考えるきっかけになった。ブロックは、戦争で壊れた家を再建したい気持ちで組み立てた」と話しました。



## 交通安全キャンペーン「アオサ作戦」 愛があふれる鹿児島路

4月6日から15日までの10日間、令和7年春の交通安全運動が行われました。今回のスローガンは「ゆずり合い愛があふれる鹿児島路」で、交通事故を防止し、安全な道路交通環境を確保することを重点としています。

4月14日は、阿久根地区交通安全協会会長島支部の会員や東町漁協の職員、阿久根警察署の署員が参加し、事故の未然防止を図ろうと赤崎橋パーキングパークで恒例の交通安全キャンペーン「アオサ作戦」を実施しました。



## 夢追い長島花フェスタ「重機試乗体験」 迫力の建設重機

4月13日、夢追い長島花フェスタ会場で重機試乗体験を町建友会（宮脇徳仁会長）が実施しました。参加した子どもたちは、普段触れることのない重機を操作することで建設重機の迫力や楽しさを体感しました。この日は、高所作業車2台とバックホウ2台、タイヤショベル1台を（有）南国リースが、10トンダンプ1台を同会会員の（有）田淵組が準備しました。

宮脇会長は「体験を通して、子ども達に建設業へ興味を持ってもらえたら」と話しました。